

[農 業 経 営]

溝辺町におけるカンラン周年栽培の経営事例

松元幸男・宮田忠男・吉倉吉司・讚井芳胤

(鹿児島県農業試験場)

MATSUMOTO, S., MIYATA, T., YOSHIKURA, K. and SANUI, T.

Evaluation of Farm Management of Year-round culture on cabbages in Mizobe district.

溝辺町周年栽培の概要

溝辺町は鹿児島県の中央部に属し鹿児島市から北東約35kmのところに位置している。農家は全世帯数の約8割を占め、農業依存度の高い地域である。

耕地はその約8割が畑であり以前から鹿児島市をはじめ国分、隼人市場を対象にした販売用露地野菜の栽培が盛んなどころである。鹿児島市場における露地野菜類は、年間を通して価格変動が大きく、あらかじめその予測が出来ないので出荷しても価格の下落でトラックの輸送代にも未たないこともあった。カンランの周年栽培は、昭和38年頃から始められ、その動機は前述の市場価格の時期的変動に対応した出荷を可能にするために行なったものである。現在周年栽培を行なっている農家は約60戸、栽培面積は150ヘクタール余りといわれているが単作の栽培も多く、溝辺町のカンラン出荷は鹿児島市場の6割から7割を占めるといわれ、その出荷方法は個人出荷である。

A氏の周年栽培の概要

A氏は第1表に示すように水田25アール、畑310アールを経営する専業農家で、当地域の1戸当たり経営規模を大きく上廻っている。水田は自家飯米確保のものであり経営の主幹はカンランの周年栽培である。A氏は自営を始めた当時(昭和28年)、甘しょを主幹として陸稲、麦、なたねなど普通作物を主体とする経営であったが、昭和30年頃から野菜作に重点をおき昭和37年から2~4月どりカンランを導入昭和40年からその周年栽培を導入し現在にいたっている。カンランの作付面積はのべ645アールで土地利用は年2~3回でカンランの連作となる。A氏は連作障害回避対策として近所の酪農家と畑の交換作や深耕を行ない、連作にともなう土壌病害虫に対し

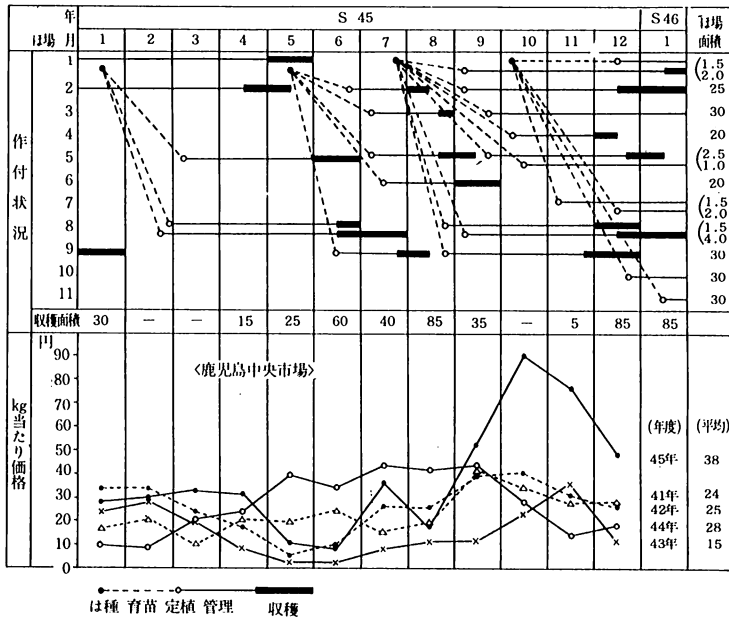
第1表 農家の経営概況

経営面積	水田	25a	340 ^a
	畑	315	
労働力	基幹	2人	3 ^人
	補助	1	
	臨時	のべ48	
作物作付	カンラン	645a	710 ^a
	ピーマン	20	
	ハクサイ	10	
	パレイショ	20	
	カリフラワー	15	
	水稲	25	
農機	耕うん機	25 ^{万円}	127 ^{万円}
	管理作業機	6	
	動力噴霧機	9	
	小型トラック	62	
施設	貯水槽	25	

ては薬剤散布を強化している。

カンランの作付状況は第1図に示すように播種期の年間4期(1、5、7、10月)を中心に6品種(石井交配7月穫、MORI英雄、石井交配大御所、ニュートップ、石井交配10月穫、長岡交配秋まき早生)、をもって、22の作型を設けて9カ月の収穫期を設定している。この作型設定は、大きくは播種期と品種によって分けられるが、小さくは定植において無仮植苗を苗の大きい順に随時植付けるところにある。しかし植付の中心は7月播きの12月~2月収穫におかれている。

第2図は作物別の10アール当たり粗収入と所得を10年間の鹿児島市場の平均価格で試算したものである。廃棄処分したものは6月と8月の収穫期のもので、その外の16作型はそれぞれ所得を得ているし9月から翌年2月にかけての収穫のものはいずれも6



第1図 カンラン作付状況と月別平均価格の動き

万円～10万円台の所得である。

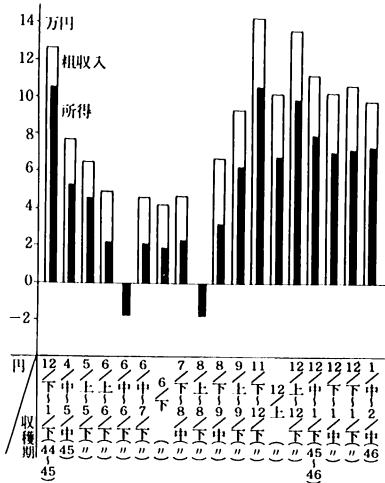
農家はこのような作付から昭和45年度のカンラン粗収入は350万円台、所得にして240万円台を得ていることになる。

- (2) 販売における価格上の危険分散
- (3) 災害時の危険分散
- (4) 所得の年次の平均化
- (5) 農機具、施設への重点的投資と使用の汎用性、などが考えられる。

溝辺町はカンランとハクサイが鹿児島県の指定産地となっており、農協ではそれらの共同集出荷体制を確立したいとしているがほとんど不可能な状態である。それは鹿児島市場まで片道50分の距離にあり市場価格にたえず注意しながら高騰時をねらった個人出荷のためと考えられる。

さらに溝辺町は新鹿児島空港建設で道路網が整備され鹿児島市まで片道30分に短縮されることで将来は鹿児島市に最も接近した近郊園芸地帯として発展し、従来のカンラン周年栽培が経営の主幹としての地位は失われ、もっと栽培期間の短い軟弱野菜にかわることも考えられる。

そして、カンランの周年栽培はさらに遠隔地へと産地移動することも考えられるが、いずれにしてもこれら農家の大規模経営方式が地域一般農家へ浸透普及するための施策、導入方式などの検討が必要である。



第2図 カンランの作型別粗収入と所得 (107アール当たり)

以上のようなことからA氏をはじめ溝辺町のカンラン周年栽培の長所としてあげられることは、

- (1) 年間労働配分の均分化